

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第37期第2四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	Y K T株式会社
【英訳名】	YKT CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 市岡 通
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区代々木五丁目7番5号
【電話番号】	03（3467）1251（代表）
【事務連絡者氏名】	財務部長 伊藤 博之
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区代々木五丁目7番5号
【電話番号】	03（3467）1251（代表）
【事務連絡者氏名】	財務部長 伊藤 博之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第2四半期連結 累計期間	第37期 第2四半期連結 累計期間	第36期
会計期間	自平成24年 1月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 1月1日 至平成25年 6月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 12月31日
売上高(千円)	4,579,026	3,902,152	8,036,755
経常利益又は経常損失() (千円)	225,182	82,107	163,299
四半期(当期)純利益又は四半期純損失() (千円)	177,974	67,906	224,133
四半期包括利益又は包括利益(千円)	225,916	49,731	323,662
純資産額(千円)	5,473,596	5,462,189	5,571,334
総資産額(千円)	8,650,563	8,612,792	9,227,731
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額()(円)	14.98	5.72	18.87
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	14.96	-	18.84
自己資本比率(%)	63.2	63.4	60.3
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	253,497	950,102	142,027
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	24,585	54,597	25,859
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	66,401	581,024	12,732
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(千円)	2,556,422	2,873,011	2,536,478

回次	第36期 第2四半期連結 会計期間	第37期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当 り四半期純損失金額()(円)	9.05	1.51

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
おりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第37期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在
するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載していません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済政策への期待感から円高の是正、株価の回復が見られ、景気は緩やかながら回復基調で推移しました。

当社グループの主要販売先である電機・機械・自動車等の製造業においても、これらの要因により輸出関連企業を中心に業績の回復が見られましたが、欧州債務問題の長期化、新興国の経済成長の鈍化等により世界経済の先行き不透明感があることから設備投資の増加には至っておりません。その結果、当社グループにおいても主力商品である工作機械（工具研削盤等）及び電子機器（電子部品実装機等）の販売は低調に推移し、連結売上高は39億2百万円（前年同期比14.8%減）となりました。損益面では売上高の減少と円安による輸入工作機械等の仕入価格が上昇したことにより売上総利益が減少し、営業損失7千4百万円（前年同期は2億1千7百万円の営業利益）、経常損失8千2百万円（前年同期は2億2千5百万円の経常利益）、四半期純損失6千7百万円（前年同期は1億7千7百万円の四半期純利益）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

（電子機器及び工作機械等）

電子部品実装機を中心とした電子機器は、スマートフォンやタブレット端末向けの設備投資需要はあるものの、新興国の経済成長の鈍化を受け低成長となりました。また、工作機械も国内の設備投資需要が回復していないことや、前期の東南アジア向け需要増の反動があり販売が減少しました。その結果、当セグメントの売上高は36億8千2百万円（前年同期比15.6%減）、営業損失は7千7百万円（前年同期は2億8百万円の営業利益）となりました。

（光電子装置）

光電子装置の販売は、加工用レーザー装置を中心にほぼ前年並みに推移し、当セグメントの売上高は2億2千4百万円（前年同期比3.9%増）となりましたが、円安の影響により輸入仕入商品の原価が上昇した結果、営業利益2百万円（前年同期比69.2%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ3億3千6百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末残高は28億7千3百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は9億5千万円(前年同期比274.8%増)となりました。これは主として、税金等調整前四半期純損失が8千2百万円となりましたが、売上債権の減少額が3億8千万円になったこと及びたな卸資産の減少額が6億7百万円になったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は5千4百万円(前年同期比122.1%増)となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出1千3百万円及び投資有価証券の取得による支出4千3百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は5億8千1百万円(前年同期比775.0%増)となりました。これは主として、長期借入による収入2億4千万円がありましたが、短期借入金の返済による支出4億1千5百万円及び長期借入金の返済による支出2億7千5百万円があったことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	11,888,740	11,888,740	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	11,888,740	11,888,740	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成25年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の権利行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	11,888	-	1,385,709	-	1,373,361

(6) 【大株主の状況】

平成25年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
山本 久子	東京都渋谷区	2,423	20.38
山本 庸一	東京都世田谷区	1,906	16.03
中川 陽一郎	神奈川県鎌倉市	265	2.23
Y K T 社員持株会	東京都渋谷区代々木5 - 7 - 5	176	1.48
原田 一雄	東京都世田谷区	159	1.33
株式会社みずほ銀行(常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会 社)	東京都中央区晴海1 - 8 - 12 晴海アイラン ドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟	142	1.19
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2 - 7 - 1	142	1.19
新田 顕祐	新潟県新潟市西蒲区	124	1.04
市岡 通	東京都練馬区	105	0.88
品川 次郎	東京都渋谷区	100	0.84
計		5,545	46.64

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 10,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,807,400	118,074	-
単元未満株式	普通株式 70,540	-	-
発行済株式総数	11,888,740	-	-
総株主の議決権	-	118,074	-

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
Y K T 株式会社	東京都渋谷区代々木5-7-5	10,800	-	10,800	0.09
計	-	10,800	-	10,800	0.09

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東光監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,550,885	2,887,422
受取手形及び売掛金	1,341,500	971,388
商品	1,421,970	824,524
その他	388,026	311,238
貸倒引当金	1,945	930
流動資産合計	5,700,438	4,993,643
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	470,508	459,752
土地	1,702,974	1,702,974
その他(純額)	74,834	71,727
有形固定資産合計	2,248,317	2,234,454
無形固定資産		
その他	21,728	19,462
無形固定資産合計	21,728	19,462
投資その他の資産		
投資有価証券	102,413	156,628
投資不動産(純額)	718,314	711,718
差入保証金	313,016	313,913
その他	123,750	182,972
貸倒引当金	247	-
投資その他の資産合計	1,257,247	1,365,232
固定資産合計	3,527,293	3,619,148
資産合計	9,227,731	8,612,792

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	822,279	910,689
短期借入金	400,000	-
1年内返済予定の長期借入金	510,648	578,629
1年内償還予定の社債	163,600	113,500
未払法人税等	11,882	7,657
その他	730,000	651,148
流動負債合計	2,638,409	2,261,624
固定負債		
社債	72,000	40,000
長期借入金	727,040	623,571
退職給付引当金	185,338	198,305
その他	33,608	27,102
固定負債合計	1,017,987	888,978
負債合計	3,656,397	3,150,602
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,385,709	1,385,709
資本剰余金	1,997,995	1,997,995
利益剰余金	2,166,080	2,038,784
自己株式	3,176	3,200
株主資本合計	5,546,609	5,419,290
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,623	18,353
繰延ヘッジ損益	7,893	1,270
為替換算調整勘定	1,099	19,166
その他の包括利益累計額合計	20,615	38,790
新株予約権	4,108	4,108
純資産合計	5,571,334	5,462,189
負債純資産合計	9,227,731	8,612,792

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	4,579,026	3,902,152
売上原価	3,500,466	3,144,934
売上総利益	1,078,560	757,217
販売費及び一般管理費	861,558	832,190
営業利益又は営業損失()	217,001	74,973
営業外収益		
受取利息	3,816	3,703
受取配当金	2,112	2,190
仕入割引	8,849	4,188
不動産賃貸料	16,902	16,902
その他	8,509	1,019
営業外収益合計	40,190	28,004
営業外費用		
支払利息	12,497	11,441
不動産賃貸費用	10,211	9,496
その他	9,300	14,199
営業外費用合計	32,009	35,138
経常利益又は経常損失()	225,182	82,107
特別損失		
固定資産除却損	595	-
特別損失合計	595	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	224,586	82,107
法人税、住民税及び事業税	5,332	3,559
法人税等調整額	41,279	17,760
法人税等合計	46,611	14,201
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	177,974	67,906
四半期純利益又は四半期純損失()	177,974	67,906

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	177,974	67,906
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,256	6,730
繰延ヘッジ損益	41,595	6,622
為替換算調整勘定	4,088	18,067
その他の包括利益合計	47,941	18,174
四半期包括利益	225,916	49,731
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	225,916	49,731

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	224,586	82,107
減価償却費	32,370	30,232
受取利息及び受取配当金	5,928	5,894
支払利息	12,497	11,441
売上債権の増減額(は増加)	259,095	380,526
たな卸資産の増減額(は増加)	147,999	607,184
仕入債務の増減額(は減少)	88,874	77,010
その他	7,943	61,959
小計	277,803	956,433
利息及び配当金の受取額	5,966	5,969
利息の支払額	10,717	10,469
法人税等の支払額	19,555	1,831
営業活動によるキャッシュ・フロー	253,497	950,102
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	5,449	13,066
無形固定資産の取得による支出	12,950	-
投資有価証券の取得による支出	-	43,757
その他	6,185	2,226
投資活動によるキャッシュ・フロー	24,585	54,597
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	15,000
短期借入金の返済による支出	-	415,000
長期借入れによる収入	300,000	240,000
長期借入金の返済による支出	220,358	275,488
社債の償還による支出	82,100	82,100
配当金の支払額	60,327	58,361
その他	3,616	5,075
財務活動によるキャッシュ・フロー	66,401	581,024
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,068	22,052
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	164,579	336,533
現金及び現金同等物の期首残高	2,391,843	2,536,478
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,556,422	2,873,011

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	10,335千円	4,847千円
支払手形	12,089千円	69,086千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
給与手当	287,284千円	295,030千円
役員賞与引当金繰入	4,800千円	-千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	2,569,029千円	2,887,422千円
預け入れ期間が6ヶ月を超える定期預金	12,607千円	14,411千円
現金及び現金同等物	2,556,422千円	2,873,011千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

(1)配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月27日 定時株主総会	普通株式	59,391	5.00	平成23年12月31日	平成24年3月28日	利益剰余金

(2)基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

(1)配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月26日 定時株主総会	普通株式	59,390	5.00	平成24年12月31日	平成25年3月27日	利益剰余金

(2)基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	電子機器及び 工作機械等	光電子装置	計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	4,363,184	215,842	4,579,026	-	4,579,026
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	4,363,184	215,842	4,579,026	-	4,579,026
セグメント利益	208,716	8,190	216,906	94	217,001

(注)1. セグメント利益の調整額にはセグメント間取引消去94千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	電子機器及び 工作機械等	光電子装置	計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	3,682,406	219,745	3,902,152	-	3,902,152
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	4,600	4,600	4,600	-
計	3,682,406	224,345	3,906,752	4,600	3,902,152
セグメント利益又は損失 ()	77,704	2,519	75,185	212	74,973

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額にはセグメント間取引消去212千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	14円98銭	5円72銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	177,974	67,906
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	177,974	67,906
普通株式の期中平均株式数(株)	11,878,205	11,877,969
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	14円96銭	-
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	18,075	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 5日

Y K T株式会社
取締役会 御中

東光監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 明充 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 勝 伸一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているY K T株式会社の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、Y K T株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管してあります。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。